

OOO

PAPER

WORKS AND JOURNALS



Architecture and Design

What's OOO

A group that creates culture through architecture.
When designing, we will propose a straightforward idea suitable for the occasion by observing various environments and cultures surrounding the project in a cross-cutting manner and tracing back to the essential proposition.

We consider that the resulting cultural space will be unconsciously comfortable and universally beautiful.

We strive to understand traditional culture, cultivate the modern culture that is there now, and creat future culture.

OOO とは

建築を通して文化をつくる事を目的として設計活動を行うグループです。
設計を行うにあたり、プロジェクトを取り巻く様々な環境や文化を横断的に観察し、本質的な命題まで遡る事で、その場に相応しい素直なアイデアをご提案します。そうしてできあがる文化をまとった

空間は、無意識的に心地よく、普遍的に美しいものになると考えています。

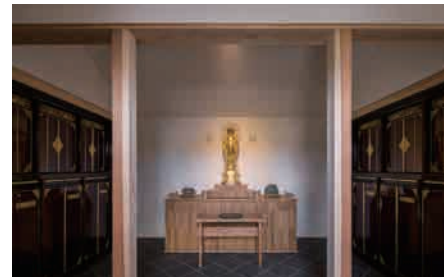
培われてきた伝統文化を理解し、今そこにある現代の文化を耕し、これから先の文化を創出します。

Joren-ji Ossuary

location : Nogata-city, Fukuoka, Japan
function : ossuary
size : 66.56 m²
construction method : timber framing
completion : 2024
structural engineer : Takashi Baba structural design office
construction : Yasutsune-gumi
lumber supplier : Toshikuni Sugioka
photo : Yosuke Harigane, OOO

納骨堂 - 清らかな気持ちをつくるアプローチ -

福岡県直方市に位置する、浄蓮寺の納骨堂建替計画。直方市はかつて炭鉱の町として栄え、炭鉱閉山以降、過疎化少子高齢化が進んでいる地域である。このような社会や都市の情勢において、住職は小さな納骨堂であっても、遠い祖先と心を交わす祈りの場、ひいては地域の死後の抛り所になり得るような場所となることを要望されていた。設計にあたり、お盆に親戚と相乗りして人里離れた山の麓に墓参りにいく時の、少し背筋を伸ばす緊張感と手放しの親密さが同居するあの空気が作れないかと考えた。そのため、建築的エレメントの知覚にフォーカスし、祈りの空間に入る準備として清らかな気持ちをつくること、堂内では少しでも滞在したくなるような納骨堂を計画した。境内には本殿と庫裡があり、納骨堂は山門を抜けたすぐ横に位置しているため、建物に入るまでに相応しい長さのアプローチが取れない。極力長い経路を確保できるよう、建物形状を縦横比の大きな矩形とし、入り口は建物中央の平入りとした。極端にストレッチした大庇は建物に懐をつくり、ここをくぐることで入室前に気持ちの準備ができる。庇の端部を大きなアール形状とすることでシームレスに懐に人を招き入れる。



須弥壇の設計 : OOOarchitecture, Inc



知覚を刺激するエレメント - 大梁、斜めの柱、丸窓 -



この大庇を支える大梁と柱の 180mm 角の太い構造材は、北側隣地の古い擁壁に荷重をかけないこと、大庇を支える合理的な角度であることから、庇と垂直、地面にとっては斜めに力を受けている。斜めの柱は入口を示す印であると同時にその先に進んではいけないことを示す結界の役割を果たす。入口正面にあるΦ1100mm の丸窓は外の世界を抽象的に切り取っている。具体 / 抽象、重さ / 軽快さ、連続 / 断絶を同時に感じる大梁と斜め柱、丸窓など、建築的エレメントの強烈な知覚によって俗世から感情を切り離し、清らかな気持ちで祈りの空間に入室できるアプローチとした。



軸組み模型

親密で静謐な空間

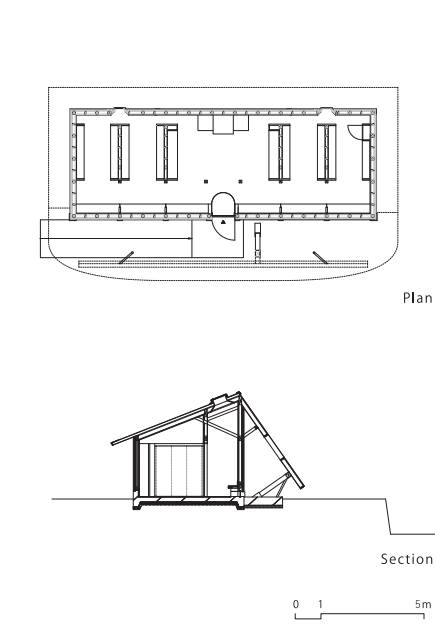
内部空間は仏壇と納骨壇がある内陣とその外にある外陣で構成されている。納骨壇が並ぶスペースは天井高さを 2,100mm、通路幅 1,090mm とし、故人との対話に集中するために極力小さく親密なスペースとした。一方外陣は天井高さ 3,600mm 程度の開放的な空間とし、大人数の家族での訪問を想定したひとつながりの腰掛を設けた。腰壁下部からは床を舐める淡い光、暗がりに配したトップライトなど、静謐な光に包まれながら故人に思いを馳せる空気を用意した。

らしさの建築

このように立ち上がった建築は、通りからは大きな屋根と円形の開口のみ垣間見える。この外観は多少の異物感を纏い、靈感をかもしだす。全体は鋼色の屋根、白い塗り壁、垂木、シンメトリーな構成など、お寺「らしい」エレメントと素材で構成している。一方で屋根、壁、基礎の建築の最低限の構成要素で成り立ち、そのそれぞれの取り合いも限りなく抽象化した。仏教における納骨堂でありながら、人類の祈りの場としての素形でもある建築を目指した。



地窓から入る光は大庇の形状に応じて光量が変化する



お参り前後に時間を過ごせる腰掛

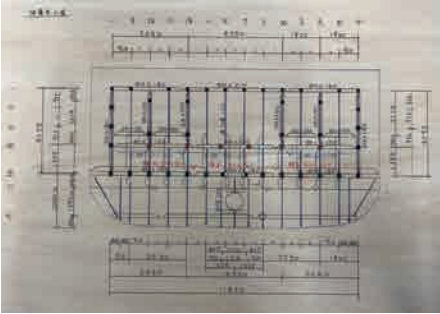


木の声をきく

材木屋さんに「建築意匠図を見せてほしい」といわれたのは始めてだった。福岡県朝倉市杉岡製材所の杉岡さんは、建築の構造的、意匠的特性を読み込み、全ての部材ごとに地域産材の木取りを手がけてくださる木挽き棟梁だ。庇を受ける 180mm 角の大梁は割れが入りづらく、反りがない安定した杉の芯サリ材（芯を外して木取りするため、巨木である必要がある）を目利きしていた。建物の施工は 1897 年創業の安恒組で、大工が木のくせを見抜き適材適所の加工を施す「手刻み」での建築にこだわる歴史ある工務店だ。材取りや施工にあたって柱一本一本の向き、断面の木目の見え方に慎重な配慮をする丁寧な仕事を目の当たりにして、畏敬の念を覚えるとともに、建築の奥深さにワクワクした。



杉岡製材所



安恒組棟梁の木版図面

安恒組

福岡に根をはり、木の魅力を最大限に活かす建築づくりを行う歴史ある工務店。

福岡市博多区下呉服町 2-24
http://www.yasutsune-gumi.jp



杉岡製材所

朝倉地域で社寺や文化財から住宅などで建物特性に合わせた木材供給を行い、杉の文化を研究、発信する。

福岡県朝倉市杷木久喜宮 8 8 8
https://sugikatoshikuni.com



column

美感について

林檎がある。そのテーブルの上の林檎が美しいと感じる。私たちは林檎を知っている。だが、なぜ美しいと感じたのだろう。とある日の、とある時間の光に包まれた林檎の丸いシルエットをふわりと包み込む影が空間的な構図にマッチしていたからか、もしくは、高揚した少年少女の頬に浮かぶ血潮に似た赤みを帯びた色の筋に生命を感じたからか、または、細い茎で樹の本体とへその緒のようにわずかに繋がりながら種子を抱く芳醇な果実のフォルムに美しさを見出したからか、それとも、いつか食べたアップルパイのシナモンで煮詰めた甘酸っぱいフィリングの味を思い出したからか。そんな身の回りから感受する些細な感覚について話したいと思っている。

かつて、バウハウスが築いたデザイン思考の中核は、新しい美の視点や秩序を発見することにあった。雲を掴むような美の感覚に対して、教員と学生が試考錯誤しながら共通の知覚を見つけ出し、その法則を調和論やカタログにまとめ、デザインの枠組みを作った。その結果、美の感覚の一部は共通の言語として世界中で扱われるようになった。その恩恵は偉大であり、作られた枠組みや秩序に安心し、私たちは、生の美しさを語ることをやめてしまった。一方で、美感を探求し続ける動きもある。ジョン・ケージやヤニス・クセナキスは五線譜に乗らない雑音からなる音の調和を謳い、ジル・ドゥルーズは「器官なき身体」や「リゾーム」を主張し、生を取り戻そうとした。私たちは今、そんな多様で無限とも思える時代に生きている。数百年後、もしくは数十年後、あるいはもっと近い未来、モダニズム的思考に対するルネサンス的回帰の時期が訪れ、近代よりも柔軟で幸福度の高い知的体系が出来ているのかもしれない。長く生き延びた暁には、巡り巡る美感について永遠に語らいたい。

ooo 佐藤佳代

HYORO

location : Saitama, Japan
function : take-out eatery
size : 17.01 m²
construction method : timber framing
completion : 2024
construction : atec Co., Ltd.
photo : Yoshihiko Wada

川越の兵糧

川越のメインの通りから一歩入った場所にある2階建て建物の1階部分にある店舗の内装改修。既存の店舗は地域に愛されていた洋食レストラン。閉店した当時の内装はそのまま残っていた。そんな店舗を「だしといなり」を提供する飲食店に改装する計画。いままで洋食店のテーブル席が並んでいたスペースに、稲荷を並べて置く「売り場」と一息つけるベンチを設置した「お休み処」の2つのスペースを構成した。

店舗を入ると外部を引き込んだような洗い出し仕上げの床と桧の間柱が並んだ間仕切り壁で設えたお休み処が目に入る。ここでは商品を買った人、そうでない人も気軽に一息つけるような距離感が生まれるように壁を天井まで仕切らないようにした。壁の一部には作業場と繋がる小窓があり、ポットを置けばセルフサービスを提供する小さなカウンターになる。

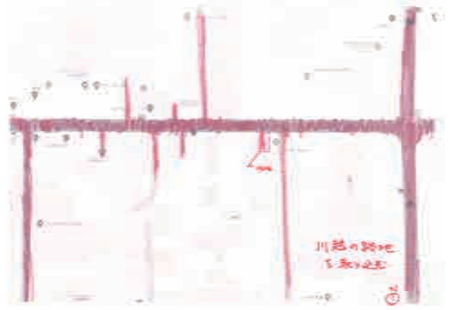
「兵糧」とは陣中における軍隊の食糧や、一般的に食糧、活力のもとになるものである。ここに訪れた人が兵糧（稲荷）を片手にお休み処で一息つき、活力をつけて、小江戸川越を楽しむきっかけになればうれしい。



お休み処と売り場を間仕切る壁

大通り「表」と路地「裏」

お店は「川越一番街商店街」いわゆる「表」のメインストリートから、一歩はずれた道路に面している。お店が面する道路から、さらにはずれると車通りの少ない落ち着いた雰囲気と静けさを感じる川越の「裏」の一面が見える「路地」がある。そんな「表」と「裏」の中間に位置するお店に「路地」を引き込み、店舗内に川越の落ち着きと静けさを引き込むことを目指した。



大通りと路地



カウンターと路地



大皿に並ぶ稲荷



お休み処

埼玉県川越市、多くの観光客や地元の人で賑わう歴史的な街並みが残る地域。駅を降りてから真っすぐと続く、メインの通りは週末になると人で溢れかえる。人の流れを受け入れられるお店はほとんどなく歩き疲れた人や食べ物を手にした人は一息

つく場所を見つけられず途方に暮れる。兵糧で提供する商品はカウンター受け渡しで食べ歩きもできれば、お土産にもなる「稲荷」。稲荷という省スペースで提供できる営業形態と休む場所がない川越には「お休み処」がピッタリきた。



ロゴや店名、商品ディスプレイなどトータルデザイン



だしといなり 兵糧

川越の路地に佇む「だしといなり 兵糧」細長い休憩スペースで、丁寧にとっただしと創作系いなりを提供するお店。

営業日
月 - 水 定休日 | 木 - 日 11:00 ~ 16:00

埼玉県川越市仲町 7-13
<https://www.hyourou.com/>



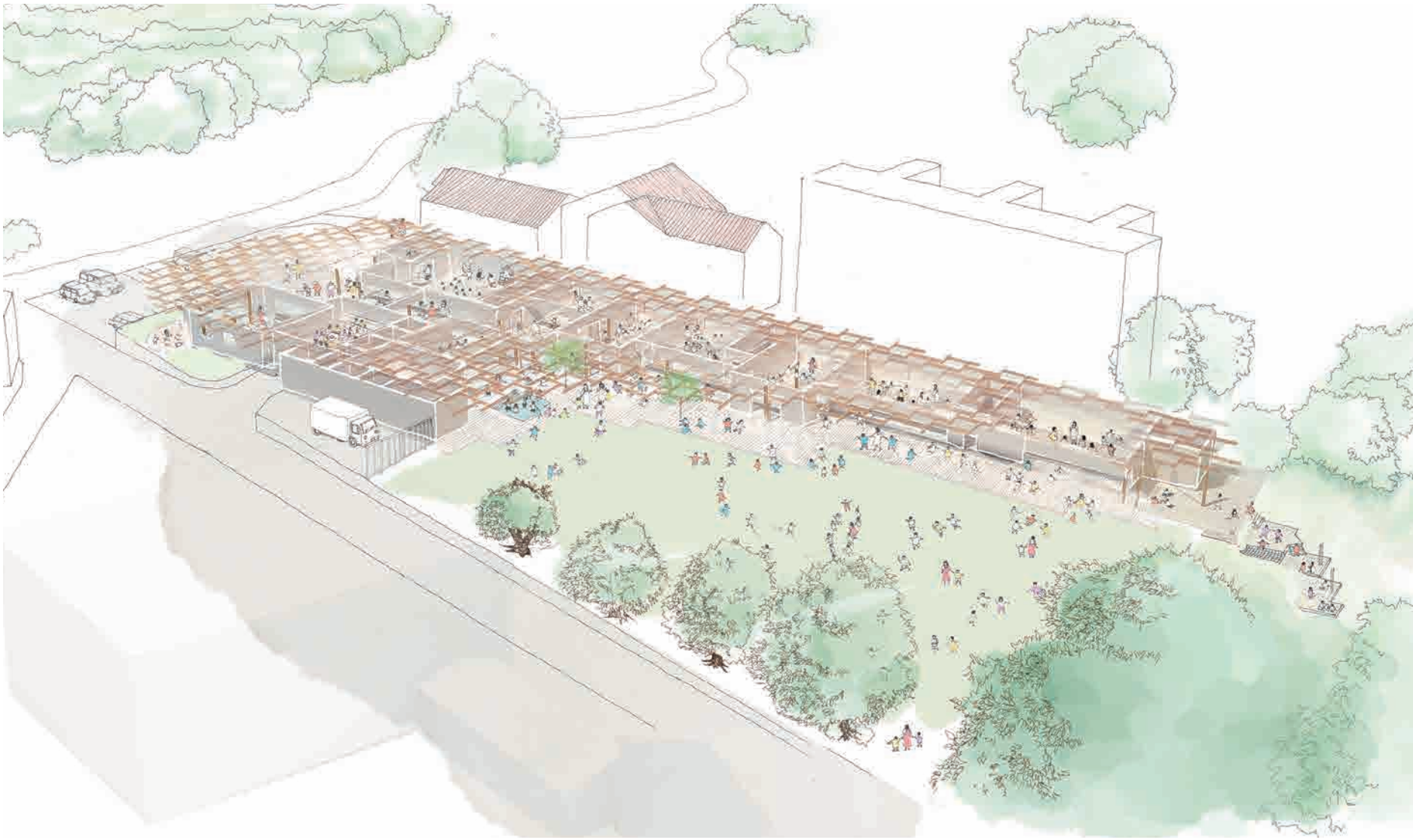
Sun and Forest nursery school

location : Gamagori, Aichi
function : nursery
size : 1200 m²
construction method : timber framing
status : proposal
structure engineer : Graph Studio Yuko Mihara



たいようともりの保育園

愛知県蒲郡市の保育園建替計画のプロポーザル提出案。太陽の恵みを浴びたみかん畑が広がる風景、優しく雄大な山並み、海から吹きあがる風など、豊かな自然がこの街の象徴。この土地のありのままの自然を感じ、子どもの創造力を育む小さな“ひっかかり”が連続する森のような保育園を提案した。部材長 4m以下の短い製材を連続させることで大きなスパンを架けられるレシプロカル構造を採用し、地場産材を活用した在来木造架構とすることで地域のサーキュラーエコノミーを作ることを意図した。



空を内部化する構造体

屋内も屋外も等しくレシプロカル架構を掛けている。ゆらぎをもって連続する構造体はパーゴラ状の半外部空間をもたらし、大きな空をヒューマンスケールの内部に引き込む。



それぞれの梁が影響し合うレシプロカル構造

column

匂いの記憶

人間の五感の中で、唯一嗅覚だけが海馬に直接働きかけるため記憶に残りやすく、忘れていく順番は最後になる。嗅覚を強く意識したのは土地を引越した時だ。新しい土地で新しい人やものと触れ合うたびに、初めての匂いに戸惑いや違和感を覚える。徐々に相手のことを知っていくと、心が先なのか体が先なのか分からないが、相手を受け入れることで匂いがしなくなっていく。今年は 2 回引越しを経験し千葉から福島へ行き、そして今は東京にいる。山の近くに住んだ時は山のすぐ側に住んでいたからか、森の匂いがとても濃かった。天気や季節によって変わる森から、様々な過去の記憶を振り返ることができた。朝、窓を開けたときに香る雨上がりの草木から、部活動の朝練、かつて住んでいた家、昔家族でキャンプに行ったことなどを思い出していた。記憶と現実の匂いは全く一緒では無いのだろうけれど、私は記憶の引き出しを探す感覚がとても好きだった。

上京してきて、都市は沢山のひとと物に溢れていて、それぞれが混ざり合い鼻が鈍感になったような気がするが、実際はもっと細切れに繋がっている。そしていつか私にも雑多な匂いに懐かしさを感じる日が来るかもしれない。そんな日を迎えるためにも日々を丁寧に積み重ねていきたい。いい建築には匂いが内包されており、それは人々の営みの中で生まれる日々そのものである。建築を通して、いつか誰かの匂いを生み出せたらいいと思う。

ooo 渡邊愛



BRINGUP MIDORI

Child Development Support Center

location : Chibashi, Chibaken, Japan
function : Child Development Support Center
size : 498m²
construction method : timber framing
completion : 2024

structural engineer : Takashi baba
MEP design : Comodo equipment planning LLC
landscape design : SFG landscape architects inc.
construction : C.S.Home Co., Ltd
Furniture design : Hiroaki Funo
Furniture making : mute furniture(Nobuhiko Hidaka)
Sign making : Kankyo zokei TOKYO LLC
Photo : Shota Hiyoshi



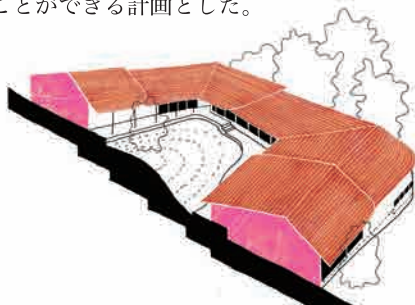
生きる感覚を培う建築

五感を培うギャラリーのような児童発達支援センター。発達障害をもつ子どもたちが遊びの中で感性を育むことができる居場所を計画した。円環プランを活かした子ども達の絵を展示する週末ギャラリーなどを接点として、地域社会に根付く計画となっている。外観は、丸みを帯びた柔らかな印象とすることで節のある生き物のようなフレンドリーな外観とし子供たちや地域に愛されながら都市を育む施設となることを意図している。

内部空間は、既存敷地の微地形をとらえたレベル差のある床と屋根がつくる様々なスケールの空間、太陽や雨の摂理を感じられる中庭などと計画し、子供たちが遊びの中で感性を育むことができるたくさんの居場所をつくった。

福祉が地域に開くことの重要性が高まる一方、発達障害児には極力外部からの過度な刺激を避ける必要がある特性を考慮する

と、建物は外部に対して閉鎖的になりがちである。この矛盾した実情に合わせて「まもるとひらく」をコントロールし、子どもの療育を第一としながらも地域に愛される施設ができないかと考えた。安全に遊ぶ、まもられた自然豊かな中庭を中心として円環状に療育室や遊戯ホールなどの各機能を配置しながら、外部から中庭の活動の雰囲気を感じ取れるように開口部を大きく計画することで、周辺地域との信頼関係を築くことができる計画とした。



design by Frame inc.

らいのごうるす

施設のキャラクターもデザインし、そのキャラクターを室内の各所に配置した。この施設を訪れた人々にこの建築に愛着を持っていただく仕組み。デザインは Frame inc. が担当した。

積み木のような家具

この施設のイメージに合わせてオリジナルの家具をデザインした。子どもたちが快適で安全に過ごせる環境を作るうえで、家具は重要な要素となる。まず、安全性を最優先に考え、角を丸めたり指が挟まらない隙間を設けたり、安定性を高めた設計を取り入れた。また、積み木をモチーフにしたシンプルで親しみやすい形状を組み合わせることで、安心感を与えると同時に創造性や学びを刺激するデザインに仕上がっている。自然素材を活用して温かみを持たせつつ、一部にカラフルな配色を取り入れることで遊び心を演出した。特にランドセル収納のベンチは、カラフルな収納箱を自由に入れ替えたり向きを変えたりできる仕様にすることで、子どもたちが空間を自分たちで構築できるデザインとなっている。触れた感覚や使いやすさを重視し、遊びと学びが融合した空間を目指している。



左 - 布野氏 / 右 - mute furniture 飛鷹氏



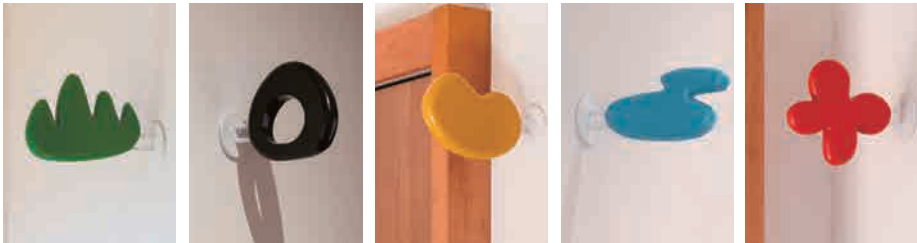
デザイン：布野宏明 / 制作：mute furniture

バレイバレイ製作所 / 布野宏明

千葉大学工学部デザイン工学科意匠系卒業。家具メーカーにて事務用椅子や木製雑貨の開発に従事するかたわら、個人活動として家具デザインや制作を行なう。現在は長野県に移住し、地域の森林資源を活用した商品開発・家具制作に取り組んでいる。

感覚的なルームサイン

この施設の部屋名は「もり」「のはら」「どうくつ」「いづみ」「ひだまり」といった自然のエレメントを名前としている。施設内のサインにも物語性や遊び心を取り入れ、見る人が自然に興味を持ち、何かを想像したくなるような工夫を施した。各室のルームサインは、単なる案内表示や名前を示す役割を超え、人々の感性や想像力を刺激することを意図した感覚的なかたちのサインとなっている。



もり

どうくつ

ひだまり

いづみ

のはら

古代の土を練り込む土壁

この土地には古代から人々が定住し、周辺からは古墳時代の遺跡である菱名台遺跡が発掘されている。実際に敷地東側の道路からも遺跡が出土している。こうした土地の歴史と風土を世代を超えて伝え、子どもたちの為の施設にふさわしい、素材感と肌感を持つサインを計画した。壁の施工は左官職人の都倉達弥氏によって丁寧に仕上げられ、この土地の土を混ぜ込んだ材料でテクスチャーを作り上げている。伝統的な技法や土地の素材を融合させ、地域のナラティブを建築的な景観としてかたちにした。館名板は真鍮切文字とし、光沢のある金色から、時間とともにくすんだ金色や深い茶色へと変化していき、時の経過とともに建物や景観に馴染んでいく素材を選定した。



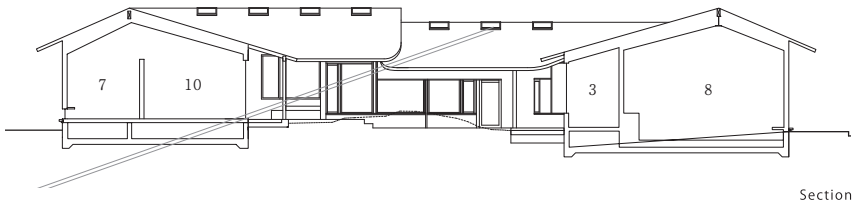
施工する都倉氏



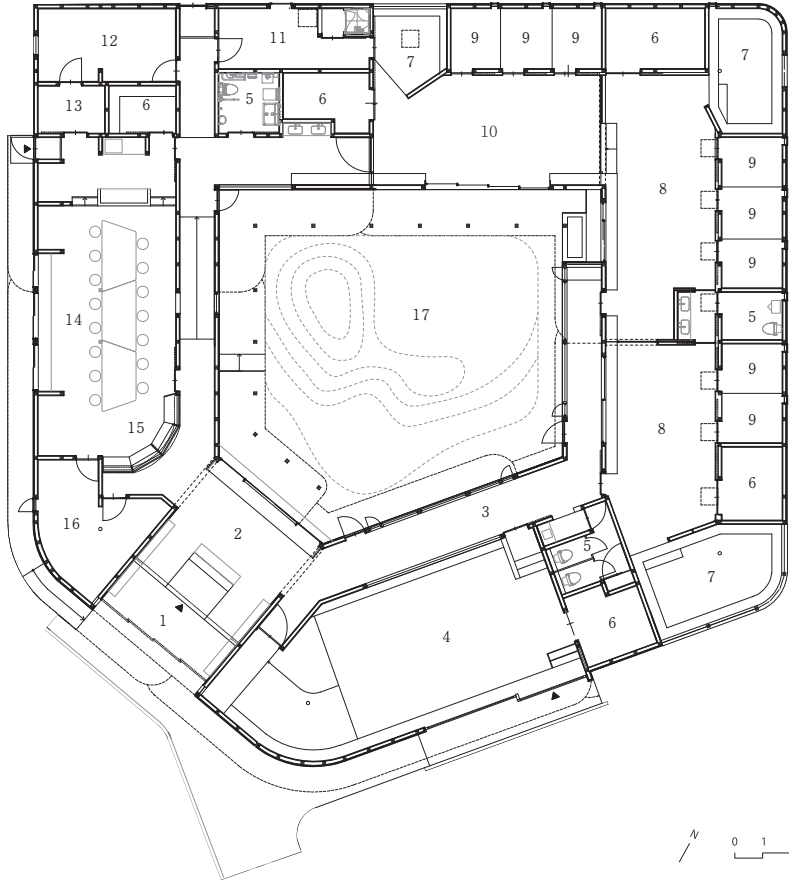
土地の土を練り込む

SAKAN TOKURA / 都倉達弥

大分県で修行後、ドイツを拠点に、壁を塗りながらさまざまな国をめぐる活動。幾多の人々と出会い、多様な技術や表現を会得し、左官都倉を設立。2011 年よりドイツアーヘン工科大学にて講師を務める。
<https://sakan-tokura.jp/>



Section



Plan

- | | | | |
|-------------------|-------------------------------|------------------|-----------------------------|
| 1. Porch | 2. Entrance | 3. En | 4. Play Room |
| 5. WC | 6. Storage | 7. Alcove | 8. Functional Training Room |
| 9. Private Room | 10. After-school Day Services | 11. Retreat Room | 12. Kitchen |
| 13. Changing Room | 14. Staff Room | 15. Reception | 16. Office |
| 17. Courtyard | | | |

column

30 進数と乗数回転

数についてのコラムです。私が発見したわけではないのですが、今後、科学の発展や人間がどう外界を認識しているかを考える際に必要になると思われる 30 進数の特殊性についてご紹介したいと思います。30 進数ですので 0 ～ 29 で 1 サイクル、30 ～ 59 で 2 サイクル…と数に性格が 30 種類あると捉えてください。この数にはとある性格があります。
 n^1 、 n^2 、 n^3 、 n^4 、 n^5 …を計算します。例えば $n=3$ とし 30 で割った余りに着目します。
 $3^1=3$ 、 $3^2=9$ 、 $3^3=27$ 、 $3^4=81=30 \times 2 + 21$ 、 $3^5=243=30 \times 8 + 3$ 、 $3^6=729=30 \times 24 + 9$ 、 $3^7=2187=30 \times 72 + 27$ 、 $3^8=6561=30 \times 218 + 21$ …となります。つまり、1 乗と 5 乗の余りが 3、2 乗と 6 乗の余りが 9、3 乗と 7 乗の余りが 27、4 乗と 8 乗の余りが 21 となり、3 という数字は乗数を重ねていくと 30 で割った余りが 4 乗ごとに $3 \cdot 9 \cdot 27 \cdot 21$ を繰り返す性質を持っています。※[n] は累乗を表すでは $n=33$ とした際はのでしょうか。
 $33^1=33=30 \times 1 + 3$ 、 $33^2=1089=30 \times 36 + 9$ 、 $33^3=35937=30 \times 1197 + 27$ 、 $33^4=1185921=30 \times 39530 + 21$ …となり、こちらも 4 乗ごとに余りが $3 \cdot 9 \cdot 27 \cdot 21$ となります。 $n=63$ とした時も同じ結果となり、3 と 33 と 63…が同じ性質を示します。

数字の羅列で恐縮ですが全てを計算すると、
 $n=0$ ：0-0-0-0、 $n=1$ ：1-1-1-1、 $n=2$ ：2-4-8-16、 $n=3$ ：3-9-27-21、 $n=4$ ：4-16-4-16、 $n=5$ ：5-25-5-25、 $n=6$ ：6-6-6-6、 $n=7$ ：7-19-13-1、 $n=8$ ：8-4-2-16、 $n=9$ ：9-21-9-21、 $n=10$ ：10-10-10-10、 $n=11$ ：11-1-11-1、 $n=12$ ：12-24-18-6、 $n=13$ ：13-19-7-1、 $n=14$ ：14-16-14-16、 $n=15$ ：15-15-15-15、 $n=16$ ：16-16-16-16、 $n=17$ ：17-19-23-1、 $n=18$ ：18-24-12-6、 $n=19$ ：19-1-19-1、 $n=20$ ：20-10-20-10、 $n=21$ ：21-21-21-21、 $n=22$ ：22-4-28-16、 $n=23$ ：23-19-17-1、 $n=24$ ：24-6-24-6、 $n=25$ ：25-25-25-25、 $n=26$ ：26-16-26-16、 $n=27$ ：27-9-3-21、 $n=28$ ：28-4-22-16、 $n=29$ ：29-1-29-1 となり、これが $n=30$ ～は $n=0$ ～と同じ結果となり、結果が循環していきます。このように数の性格が 30 種類に分けられることが説明できます。以上は全く構造設計と関係のない話ではありますが、数を持つ性質によって物理現象を記述できるとしたら非常に面白いです。数が 0 ～ 29 で、乗数も 1 ～ 4 乗で循環する規則性が、構造設計という自然の重力の法則と響き合う可能性もあるような気がしています。そのような数字の美しさと共鳴しながら解いた計算によって生まれた構造をもつ建築はとても美しいものになるかもしれません。

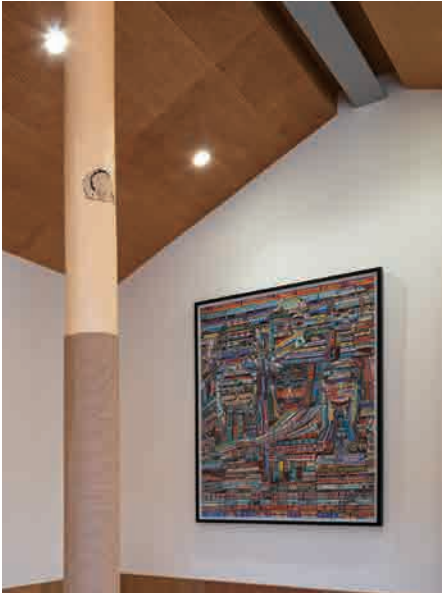
構造設計者：

馬場貴志構造設計事務所 馬場貴志



きっかけのアート

昨今、アール・ブリュットの観点から障害を持つ方々の作品への関心が高まっている。実際に彼らが生み出す作品にはアール・ブリュットの概念の本質に触れるような、純粹で自然発生的なパワーがある。この施設では施主と設計者で実際にヘラルボニーの展覧会に足を運び、6点の絵画を購入し、子どもたちが元気に遊ぶホールとギャラリーに見立てた廊下に設置した。この絵画たちは、普段児童がアートに触れ、作品をつくり、展覧会をするきっかけとなっている。そして、ご両親も子どもたちの可能性に気付くきっかけになることを願って展示している。



ホール



廊下ギャラリー

株式会社ヘラルボニー

ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ異彩作家とともに、新しい文化をつくる企業。国内外の主に知的障害のある作家の描く2,000点以上のアートデータのライセンスを管理し、さまざまなビジネスへ展開する。「異彩」を社会に送り届けることで、「障害」のイメージを変え、80億人の異彩がありのままに生きる社会の実現を目指している。

本社：岩手県盛岡市開運橋通 2-38
@HOMEDELUX ビル 4F
東京都千代田区大手町 2 丁目 7-1
TOKIWA ブリッジ 13F
<https://www.heralbony.jp/>



AWARD



Bring up みどり子ども発達センターは
2024年グッドデザイン賞を受賞しました。

評価コメント

福祉施設の難しさは、利用される方々の多様な状況をどのように建築が受けて止めていくかにある。この計画は、発達障害をもつ子どもたちの場所なのだが、いわゆる「施設をひらく」ということが難しいものの一つであろう。このプロジェクトが優れているのは、適度に社会との関係を持ちながら、子どもたちにとって安定感のある変化に富んだ空間を生み出している点になる。変化とは、危険と隣り合わせのものになるのだが、人間の五感に働きかける多様さは、支援施設の持つ閉塞感や施設らしさを払拭していることにつながっているのではないか。このデザインが、多様でますます複雑になっている福祉をより日常的なものに引き寄せることを多くの人に知ってもらいたい。

社会福祉法人

創英舎

column

Kindness infrastructure

【kind】

親切的；親切にする，やさしい，思いやりのある。語源は古期英語の cynd（人種；血筋）に由来する。キリスト教的な性善説により「生まれたままの人」＝「親切」という意味付けになったと考えられる。

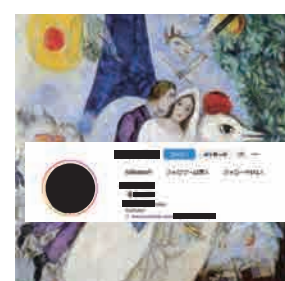
ここ数年の過剰な「私が」の世の中がつまらない。コスパ・タイパ・フォロワー数など、数字で量化できるものが価値とされている世の中なのだから、その数を享受する「私」が中心になってしまうのは、なるべくしてなっている状況だろう。ただ、この価値観で駆動する世の中が、

数字により 1:1 でその事柄の価値が明らかになってしまう世の中が、私は心底つまらない。

話は変わるが、子育てをしてみると、普段気づかなかった都市のレイヤーと出会う。ベビーカーを押しながらエレベーターを使い、電車に乗っていると時間もかかれれば混雑にもたびたび遭遇する。そんなとき、笑顔で助けてくれるのは、いつもおばちゃんたちだった。エレベーターや電車に乗る過程で出会うそのおばちゃんの親切さは都市のインフラのようだとすら思った。おそらくこの種の親切さはおばちゃんに限らず、見えないところで都市を支えてくれているのだろうと子育てを通じて思った。この価値を今、だれがどう評価しているのだろう。

数字と直結する「私が」は早くて鋭い。高音のように耳を突き、人の関心を引き、人々を振り向かせる。一方で「親切」はじんわり力強い。低音のように体を震わせ包み込む。音楽は高音と低音が交わらないと生まれない。

ooo 佐藤陽



シャガールとその上に乱暴に被せられた数字のコラージュ



Joren-ji Nursery School

location : Nogata,Fukuoka,Japan
function : nursery school
completion : 2024
construction : Kingurun Kyushu Co., Ltd Masashi Takenaka
landscape design : SfG landscape architects inc.
logo+HP design: Frame inc. Ryuta Ishikawa, Ayumi Hasegawa



建築設計主導によるブランディング

改修工事に先立ち、両園トータルで HP とロゴのリニューアルを行った。先生方への綿密なヒアリングやワークショップを経てデザインを行ったが、このようなフェーズは建築を設計する上でも普段の業務行っており、保育への‘思い’のコアとなる部分を共有できれば、建築やロゴ、HP といったインターフェイスも一貫性を持った形を生み出すことができる。これまでの実績で設計主導のブランディングの有用性を感じていたが、今回のプロジェクトでは Frame.inc と協働したことで、よりトータルでブランディングの質を上げることができた。

Frame inc.

石川竜太主宰のデザイン事務所。デザインを表現の世界だけで語ることなく、プロセス全般における関わりを強めていきたい。デザインを通じてビジネスを発展させ、その可能性とよこびをクライアントと共有したい。フレームは、何かを志す人のクリエイティブ・パートナーを目指す。
新潟市中央区西船見町 5932-499
<https://frame-d.jp/>



浄蓮寺保育園ホームページ



山の中で安心して思い切り遊べる贅沢

社会福祉法人創英舎が経営する福岡県直方市の「浄蓮寺保育園」と「植木こども園」のリニューアルに携わっている。両園とも数十年の長い歴史を持っているが少子化の流れに加え、直方市は過疎化の一途を辿っており、都市部に比べ拍車を掛けて少子化が進んでいる地域である。そんな街に位置する二園のリニューアルプロジェクトの第一弾として「浄蓮寺保育園」の改修計画を行った。浄蓮寺保育園は直方を象徴する福智山の麓に位置し、豊かな緑と起伏のある地形で、子どもたちが活き活きと遊んでいる。すでに豊かな場が在る保育園だった。ただし、良くも悪くも大らかな動線やゾーニングがなされており、安全性や、管理の利便性の向上が必要であった。そこで、ランドスケープデザイナーとして SfG に参画にして頂き、今ある浄蓮寺保育園の良さを最大限に活かせるよう、外構計画に予算の大半を投入した。適切な動線の整理、園庭エリアの区分、未満児広場の整備、広大な敷地を俯瞰するためのサインデザインなど設計の土台となるような基礎的な項目を実直に積み



上げた。結果、猥雑だった様々な要素が整理され、自然の中で子どもたちが気持ちよく遊べる園庭になった。

わくわくする園内マップ



design by SfG Satomi Takagi

園内は広い敷地が段々になりながら、遊び場が散りばめられており、樹木も隆々と育っているため、全体像がわかりにくい状態になっていた。園内全体を鳥の目になり、使い方のイメージの喚起ができるようなフレンドリーな園内マップをデザインした。

SfG landscape architects inc.

大野暁彦主宰のランドスケープ設計事務所。‘「場」とつきあうこと’をテーマに掲げ、ランドスケープを「その土地独特の (Site specific) 環境特性や社会特性を引き出し、それによりその場で人々の生活や文化がのびのびと広がってゆくような空間をデザインする」ことと捉え設計を行う。
愛知県名古屋市中千種区今池 4-4-20-7E
<https://www.sfg-landscape.jp/>



今後の発展 - 植木こども園改修・児童発達支援教室新設



平野に建つ植木こども園

浄蓮寺保育園の改修工事が完了し、現在は「植木こども園」の改修設計が進んでいる。浄蓮寺保育園は山、植木こども園は平野に位置する。周囲に田園風景が広がり周辺の農家の方々との交流がある。両園は移動教室などでの交流を日常的に行っており、それぞれの土地の特性を活かした保育が行われている。その両園の魅力を活かすことができる改修リニューアルを計画中である。さらに、浄蓮寺保育園の隣接した敷地では児童発達支援教室の計画中也始まった。この施設があれば発達障害を持つ児童も保育園からシームレスに療育を受けることができる。それも豊かな自然の中での良質な療育を。施主である創英舎のこのような地方都市での試みは先進性や質などの面で生じつつある都市部と地方都市における保育や福祉の格差に一石を投じるものでないかと感じている。

column

小さくて大きい同い年

1959 年から 41 年間一度もモデルチェンジせず製造し続けられた小さなクルマ。中でも 1996 年モデルが自分にとって初めての愛車になった。仙台にいたときに納車され、1 年後に転職、学生以来 3 年ぶりに東京に戻ってくるとは当時思ってもいなかった。東京に行く決断は悩まなかったが、東京に車を持っていくかは少し悩んだ。初めて販売店に見に行った後日、「手放す人がいる」と見せてもらったのが、同い年のアーモンドグリーンの小さいクルマ。即決だった。愛らしいフォルムと偶然の出会いに、気づいたら愛着が湧き、東京に行ってもいつまでも乗ってられるように仕事を頑張ろうと、いつの間にか自分がエンジンに。

OOO 塚原諒



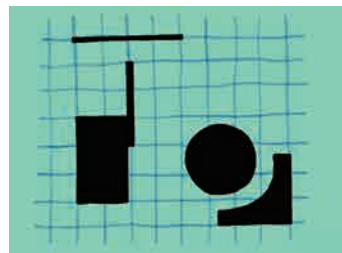
Grey and Black Library

location : Kamihukuoka, Saitama
function : Home Library
size : 7.1 m²
completion : 2024
construction : mute furniture (Nobuhiko Hidaka)
photo : Yoshihiko Wada



不規則とオリジナル

某大手ハウスメーカーの既存住宅の一室を造作工事でライブラリー化する計画。整然と合理化された既存空間をベースに、あらゆる本の規格サイズのうち偏差の大きいものを切り捨てた最大公約数的寸法を導き、比較的どんなサイズでも受け入れられる本棚グリッドを合理的に設計した。ブルーグレイに塗装されたグリッド状の本棚が空間を支配するが、家族の要望や空調設備の納まり等を調停するために挿入される不規則なエレメントは同素材でありながらブラックの塗装を施した。普遍性と固有性が同居する、この家、この家族ならではのオリジナルのライブラリーが現れた。



ブルーグレイの本棚とブラックのエレメント

column

生きるための「感触」について

大学時代の卒業設計で特に熱心に取り組んだことの一つが、デジタルツールを使って手描き風の画を描くことだった。当時、新しいソフトウェアの登場により、学生でもCGパースを簡単に作成できるようになったが、その表現はどこか味気なく感じられ、従来の手描き表現はやや古臭い印象があったからだ。試行錯誤の上Photoshopを使い、CGを基にマウスで陰影やテクスチャを丁寧に加えるという手法をとって見たところ、機械演算の正確さから外れた人間味とオリジナリティが現れ、満足のいく出来になった。やり直しが効き、インクで手を汚す必要もないという効率化が図れた一方で、その手法開発だけに製作期間のほぼすべてを費やすという非効率な時間の使い方をしてしまったのも事実だが。

似た構造を持つ別の音楽の話を挙げる。フライングロータスの「Never Catch Me」を初めて聴いたとき、後半に登場する少し違和感のあるバスドラムが心を揺さぶった。正確なリズムグリッドからわずかに逸脱したそのビートは、クールでありながらオーガニックだ。この「ズレ」の起源を調べると、Jディラがサンプラーのクオンタイズ機能（手打ちのビートを機械が一定のリズムに補正する機能）を使わず、手打ちのままミックスしたことに由来するらしい。正確性が担保された打ち込み系の音楽の中で、人間の聴覚がかるうじて感知できる範囲のズレが生む人間味が、この表現を特徴づけている。これらの話に共通することは、技術が到達点を迎えても、人類はそれを契機に人間的感情や身体性を呼び覚まし、新たな枠組

を築いてきたということだ。人工知能と3Dプリンターの進化により、コンピュータが高速かつ高品質で固有性（同一反復でない）をもつ建築を生み出す日はすぐそこまできている。果たして建築家の仕事は人工知能にとって変わられてしまうのだろうか。このようなありふれたシンギュラリティ的な話に対する僕の態度はといえば、楽観的だ。なぜなら、テクノロジーが完全性を獲得するたびに、「エラー」や「ズレ」が新しいカルチャーを切り開いてきた数々の歴史を体感できているからであり、何より学生時代に自らマウスで描く画に没頭し、光が見えた時の経験が身体的・精神的「感触」として僕の核に宿っているからである。10年ほどこの仕事を続けてきて近頃思うことは、僕がモノづく

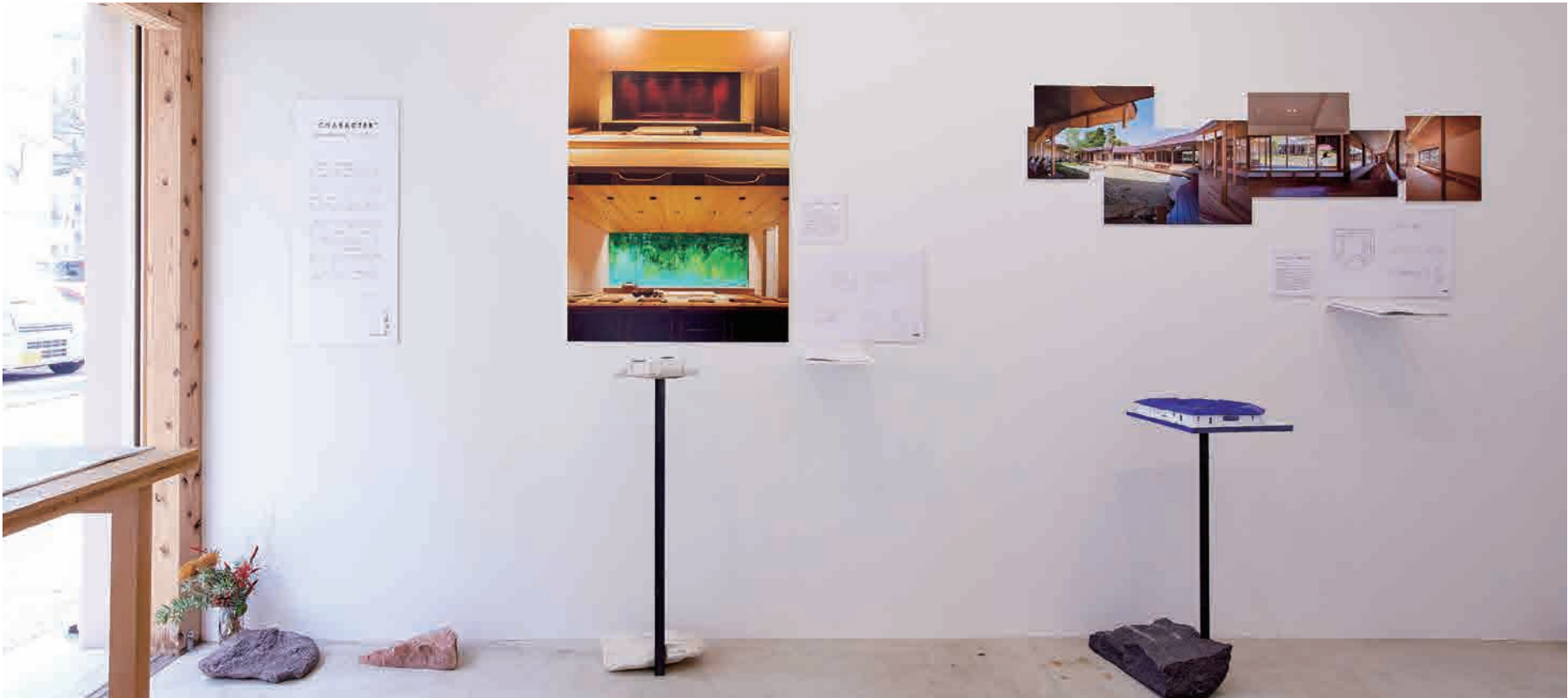
りを続けていられる理由はこの類の「感触」をいくつか身体が憶えているからなのではないかということだ。これはモノづくりに限ったことではない。目まぐるしい世界の変化に流されず、僕たちが今この場所に立っているのは、人それぞれ対象は違えど、このような生きるための「感触」を持ちあわせているからなのだと思う。

ooo 馬場 亮平



CHARACTER

OOO architecture 1st Exhibition



人と建築展 vol.18 にて OOO 初個展を開催

10/28～11/4の8日間、巣鴨のギャラリーオルガンにて、人と建築展 vol.18 に出展。人と建築展とは合同会社 tmaa が主催し、建築に係る人やプロセス、言葉を大切にしたい建築作品展である。OOO の展示テーマは「CHARACTER」。2015～2024 年の実作の中から、キャラクターが特徴的に表出する6作品を展示した。

「CHARACTER」

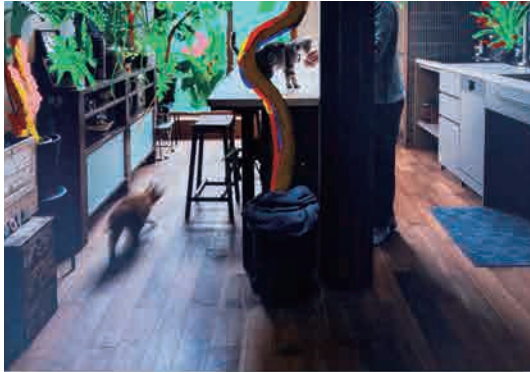
敷地特性、風土、文化、歴史、環境、経済、建主のパーソナリティ等、取材で得たあらゆる情報から建築を紡ぎ出そうとした時、幾つもの課題がスッと解ける瞬間があります。そのアイデアを私たちはキャラクターと呼んでいます。キャラクターは形式であることも、オブジェクト、あるいはシステムであることもあります。キャラクターは一見シンプルですが、あらゆる事象が重なった結晶であり、自由でユニークなものです。建ち上がったそのキャラクターを見れば、この土地がどんな土地だったのか、建主がどんな人柄なのかがわかるのです。

キュレーター竹内さん

キュレーターは tmaa の代表であり建築家の竹内証人さん。竹内さんが通りがかりに王子の住宅 (OOO PAPER vol.3 掲載) を見つけて OOO にお声がけ頂いたことで今回の出展に至った。出会って以降、何度かお話しする機会を頂いたが、我々の建築或いは我々自身に対して竹内さんが発する言葉は温かくも示唆的で、深い洞察を感じる。そして共感者の眼差しで併走してくれる姿はまさに人と建築展のコンセプトを体現している方だと思う。竹内さんとの出会い、そして貴重な個展の機会を頂いたことに、この場を借りて深く感謝を伝えたい。



ギャラリーオルガン前にて OOO と竹内さん (中央)



示風景

展示のための什器

模型を展示するために、石彫の端材とスチールアングルで構成した什器を作成した。石彫の端材には、タガネで割られた際に残る跡が刻まれ、人の力と自然の力が交わった痕跡が浮き出ている。その石には不規則で野生的な曖昧さがあり、スチールアングルは直線的で明確な形状を持つ。この相反する性質を持つ両者が出会い、それぞれの性質を引き立て合いながら、一つの什器として調和することを目指した。



デザイン：Souta Tawata + ooo / 制作：Souta Tawata

column

万葉の世界に触れて

秋に生まれる息子の名前を考えていた。WEB 上にある命名サイトのとりとめのなさにうんざりし始めた時、ふと万葉集を開いてみた。古人が綴る言葉にヒントがあるのでは、という浅はかな期待を抱いて。万葉集は、奈良時代に天皇から農民まで、様々な身分の人々が詠んだ歌を収めた日本最古の和歌集である。政治的な話から、愛、不倫、死など生々しくもピュアな感情の機微を詠んだ歌まであり、ここまで言っているの？という赤裸々な表現も多く、その寛容さに驚いた。701 年大宝律令により日本が国家として確立するために、独立した文化を形成するべく和歌が生まれたとも言われている。万葉集掲載の和歌は文化的にもまだ醸成されていなかったからこそ、自由で粗削りなのだろう。後の古今和歌集などはもっとお堅く技巧的、らしい。芸術として醸成される前の初期の和歌は、花鳥風月を慈しみながら、人間らしい感情をありのまま表現することを厭わないからとても瑞々しい。最近、日常的に表現の自由が極端に制限されている実感がある。過剰なポリコレ (Political Correctness) が自由な言葉を奪っているのだ。自身はそんな気質が薄いと思っていたが、例えば何気なく TV を見ていると、この表現はコンプラ的に大丈夫か？などと余計なノイズが脳裏を走り気楽に笑えないことも。ポリコレの波に蝕まれている感覚が怖い瞬間がある。多様性を認めることは今の世の中的には絶対的正義であるし間違っていないと思うが、一見ポリコレを侵害しているような表現も、ひとつの多様性であることを決して忘れてはならない。現代でも元号が万葉集から引用されるなど万葉の言葉が日本の文化基盤になっているのは、万葉集が本当の意味で多様であり、豊かな創造性に溢れるものだったからこそであろう。さて、万葉集を読み終え、息子の名前を考えた。秋の和歌には情緒豊かな言葉が多くあり悩んだが、もはやいっそのこと、それらを包含できる「秋」という漢字を採り入れることにした。秋から連想される自然、芸術、行楽、食…など、あらゆる文化を感じとり、豊かな感性を磨いてほしいと願う。息子よ、父は欲張りな名前をつけました。頑張ってね。

OOO 和田彦丸



設計とはコンセプトやアイデア、納まり、空気感を統合した多重の意味を持った線を探す行為といえ、その過程でぼんやりした線が徐々に定まっていくものです。

そして竣工写真はその集大成としての結果を客観的に切り取ったメディアと言えます。

本展示では一瞬で記録できない、その建築に潜む時間軸のないアイデアやコンセプトをぼんやりした線のまま写真に重ねることで両者が同居し、それ自体が抽象化された建築の総体と言えるような表現を試みました。



王子の住宅

施主の実際の生活空間の写真をアクリル絵の具でなぞって抽象化することで、建築がもたらしたアクティビティを強調すると同時に、極めてパーソナルな生活から離れた普遍性のある建築表現として自律させることを意図しました。



神楽坂の複合福祉施設

計画敷地は土地区画の水平垂直の隣地境界と、生きた都市構造の一部である前面道路でわずかに切り取られた斜めの道路境界からなっています。この画一的でない僅かなズレを最大限に利用したファサードデザインとしています。赤いラインは建物の水平垂直を表し、このラインを拾いながら雁行させることでファサードが斜めの道路に沿うことを表しています。



みどり子ども発達センター

この円環状プランの建物は中庭を中心とした連続する視点移動によりスケールや段差、陰影の目まぐるしい変化を感じることが空間体験として認知できるため、1アングルの写真では伝わりづらい。連続する写真をコラージュすることで一連の空間体験を一度に感じられる表現を試みました。



浄蓮寺納骨堂

軒下のアプローチ空間は不思議なスケール感や重力の存在など、知覚を揺さぶることで俗世から気持ちを切り離し、祈りの空間への入室の準備をします。軒下の空間以外の現実世界を抽象的に塗りつぶすことで俗世から切り離されていることを表現しました。

鎌倉の住宅

家の中心に配置したアール状の階段室の周囲に生活感のあるアイテムを描いています。これは階段室の周囲に別々の活動が行われる領域をつくりだしていると同時に、それぞれの領域がひとつながりでもある、という空気を表現しているものです。



たかおか

下が 2015 年完成の鮎たかおか千葉店。上が 2023 年完成の八重洲ミッドタウン店の写真です。つけば背面の漆パネルは千葉から八重洲に店主とともに移転しました。現在漆が不在の千葉店の写真を塗りつぶすことでその固有性を表現しています。



Reportage

建築の図像性と空間性

1933 年に来日したブルーノ・タウトによって評価された桂離宮は、その後、石元泰博の写真集『KATSURA』によって、日本のモダニズム建築に大きな影響を与えたと言われている。『KATSURA』では、写真の持つ図像性によって、桂離宮のモダニズム的側面が意図的に強調されている。一方で、タウトは桂離宮を形態的なモダニズム建築としてではなく、建築と庭園の関係性について評価をしたと言われており、両者の意味合いには大きな隔たりがある。写真によって切り取られた図像性によって、意図せず本来の空間性とかけ離れた解釈がなされる建築は、桂離宮以外にも多くあるだろう。

さて、今回の OOO architecture の展覧会では、写真とドローイングによる図像的な表現を主軸としつつ、それを模型と図面で補完する展示となっている。「鎌倉の住宅」：まず目に入ってくるのは、丸みを帯びた白い筒状のフォルムである。写真へのドローイングによって、異なる生活空間を繋ぐ象徴的な装置のようにも見える。しかしながら、実際の平面計画としては階段室として機能しており、トップライトから取り入れられる自然光によって、空間的な豊かさをつくる建築手法として成立している。「浄蓮寺納骨堂」：円形の開口部から太陽光が入り込み、陰影との対比が特徴的である。超現実主義的のようにも見えるその写真は、

テキストが無ければ納骨堂だとは分からないだろう。模型と図面によって、円形の開口部が大庇であるとともに、納骨堂内部への動線としての機能を兼ね備えていることが分かってくる。近年、SNS の普及によって、フォトジェニックな受けの良い建築が取り上げられることも多いだろう。しかしながら、当たり前だが建築は二次元的な図像では無いし、三次元としての広がりを持った空間である。前述した桂離宮がタウトによって評価されたのも、石元による切り取られた図像性ではなく、桂離宮の持つ建築と庭園の関係が生み出す空間性にあったはずである。今回の展覧会を通じて、彼らが「キャラクター」と呼称しているそれが、単なる SNS

映えではない、建築の機能や豊かさとしての確かな空間性を支えているのだと理解出来た。図像性と空間性。両者を兼ね備えた建築こそが OOO architecture の魅力なのだろう。

書き手：山崎拓人



MAKE CULTURE

文化とは原始から現在まで人類が積み上げてきた人間の豊かさの蓄積であると私たちは考えています。そして、これから生み出す私たちの建築もその文化を積み上げるものでありたいと考えています。私たちはこのような建築を設計するために、建築という分野にクローズドにならず、建築を建てるという目的に関連する、衣食住、芸術、音楽、映画、ファッションなど様々な分野のプロフェッショナルと、必要に応じてアメンバーのようにチームを成しながら、建築を設計していきたいと考えています。そして、このようなスタンスで生み出される建築は人々の営み総体としての文化を纏ったものになると考えています。OOO は「Make Culture」というビジョンを実現するために「Dive・Play・Make」の3つのスタンスを基に活動を行います。

DIVE

いいかい、怖かったら怖いほど、逆にそこに飛び込むんだ。

やってごらん。

岡本太郎

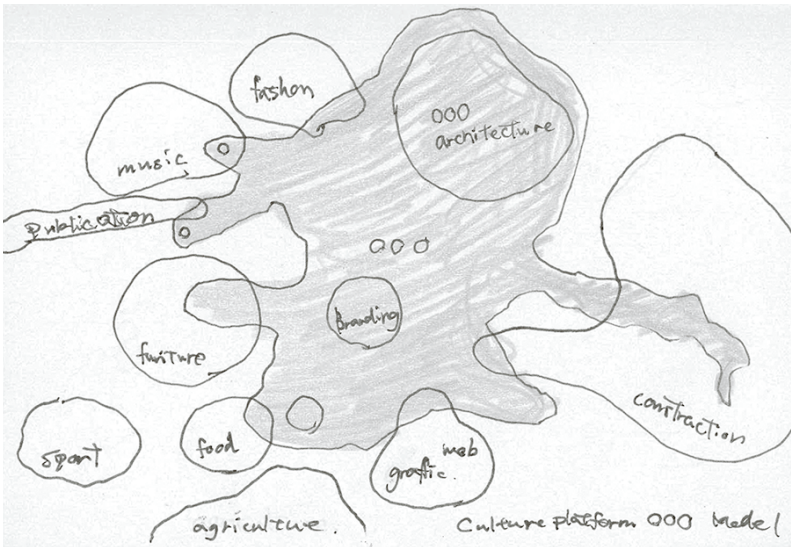
昨今、私たちを取り巻く価値観は急速に変化しています。建築・デザインの分野はもちろんのこと、デジタル技術、環境問題、SDGs、LGBTQ+等、ダイナミックに変化する新しい価値観に対し食欲に興味をもち、SNS や画像検索だけで得た知識だけでなく自分たちの体と頭で理解を深めます。また、これまで建築が建築として扱ってこなかった分野や業務にも積極的に身を投げ出し、フィジカルにその価値感を体感します。

PLAY

「Dive」した環境には、必ず解決すべき課題や調整事が存在します。私たちはそういったすべての物事に対し誠意をもって向き合います。そして、そのような物事全てを与条件として受け入れ、同じテーブルに並べ、フェアな目線で眺め、手を動かして設計を進めます。また、クライアントはもちろんのこと各分野のプロフェッショナルと協働し、議論しながら設計を進めていきます。このような態度で検討を重ねることができると考えています。そして何より、このようなスタンスで設計を行うことで、私たちだけでは行き着くことのできない発想に到達できることに私たち自身も建築的な好奇心を持っています。

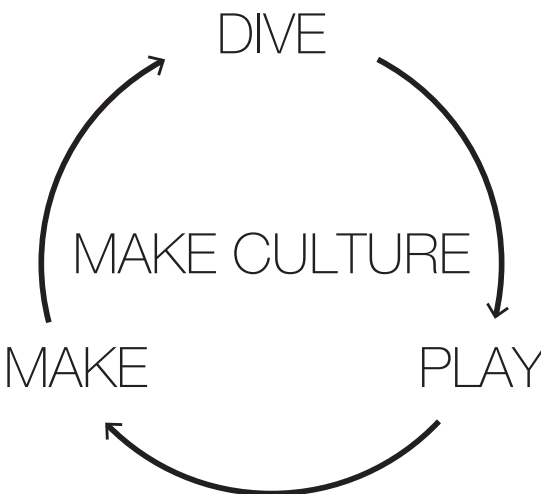
MAKE

「Dive」と「Play」によってうまれた文化の種を図面や模型に練り込みながらその建築を実現していきます。建築は一人の手で完成することは決してありません。施工者の方々ともコミュニケーションを図り、細部にいたるまで血の通った建築を都市に生み出します。このようなプロセスにより生まれる建築は、本質的な意味で文化を纏ったものになると考えています。この新しい文化を醸造する「Make」によって生まれた人と人、物と物、あるいは人と物のつながりは、あらたな世界への「Dive」へのきっかけとなります。OOO は「Dive・Play・Make」の循環によって「Make Culture」を実践していきます。



OOO デザインプラットフォーム

アメンバーのように流動的に変化するデザインプラットフォームのイメージ。プロジェクトベース、あるいは哲学や思想などの観念でのつながりもあり得るのかもしれない。人と人のつながり方が劇的に変化した現代において可能な、新しいチームの成り立ちをめざす。



Make Culture の循環モデル

Dive・Play・Make を運動のきっかけとした Make Culture の循環モデル。文化を造るという大きなビジョンを実践していくには常に動的であることが重要であると考えている。変化を受け入れ、スパイラルアップしながら運動を持續させていくことが必要である。

Profile



佐藤 陽 Yo Sato

1985 福岡県生まれ
2009 千葉大学デザイン工学科 卒業
2011 千葉大学大学院工学研究科 修了
2011-2021 株式会社佐藤総合計画
2015- OOOarchitecture 共同主宰



馬場 亮平 Ryohei Baba

1985 長野県生まれ
2009 千葉大学デザイン工学科 卒業
2011 スイス・メンドリジオ建築アカデミー奨学生
2012 千葉大学大学院工学研究科 修了
2013-2022 鹿島建設株式会社
2015- OOOarchitecture 共同主宰



和田 彦丸 Hikomaru Wada

1986 大阪府生まれ
2009 千葉大学デザイン工学科 卒業
2011 千葉大学大学院工学研究科 修了
2011-2023 鹿島建設株式会社
2015- OOOarchitecture 共同主宰



OOO architecture
(オーアーキテクチュア)

Award

- 2018 千葉市建築文化賞 優秀賞
- 2019 日本空間デザイン賞
- 2024 グッドデザイン賞

Tel : +81-3-6906-9720
Mail : contact@oooarchitecture.com
HP : https://oooarchitecture.com/

HP



instagram



on going...

八王子の障害者施設

location : Tokyo, Japan
function : welfare facility
structure : RC
completion: 2025

百人町のホテル

location : Tokyo, Japan
function : hotel
structure : RC
completion: 2025

千葉の住宅

location : Chiba, Japan
function : house
structure : timber
completion: 2025

天六の住宅

location : Osaka, Japan
function : house
structure : timber
completion: 2025

美浜のギャラリー

location : Chiba, Japan
function : gallery
structure : timber
completion: 2025

八王子の動物病院

location : Tokyo, Japan
function : animal hospital
structure : RC
completion: 2025

直方の児童発達支援事業所

location : Nougata, Japan
function : child development support center
structure : timber
completion: 2025

練馬の小学校

location : Tokyo, Japan
function : elementary school
structure : RC
completion: 2028

アクセサリショップアトリエ

location : Tokyo, Japan
function : atelier
structure : RC
completion: 2025

百人町のサウナ

location : Tokyo, Japan
function : sauna
structure : RC
completion: 2025

鮎新

location : Chiba, Japan
function : restaurant
structure : RC
completion: 2025

アジアンレストラン

location : Tokyo, Japan
function : restaurant
structure : -
completion: 2025

焼津のベーグルショップ

location : Shizuoka, Japan
function : bakery shop
structure : timber
completion: 2025

植木保育園

location : Nougata, Japan
function : nursery school
structure : RC
completion: 2025

松戸のオフィス

location : Chiba, Japan
function : office
structure : RC
completion: 2025

and more

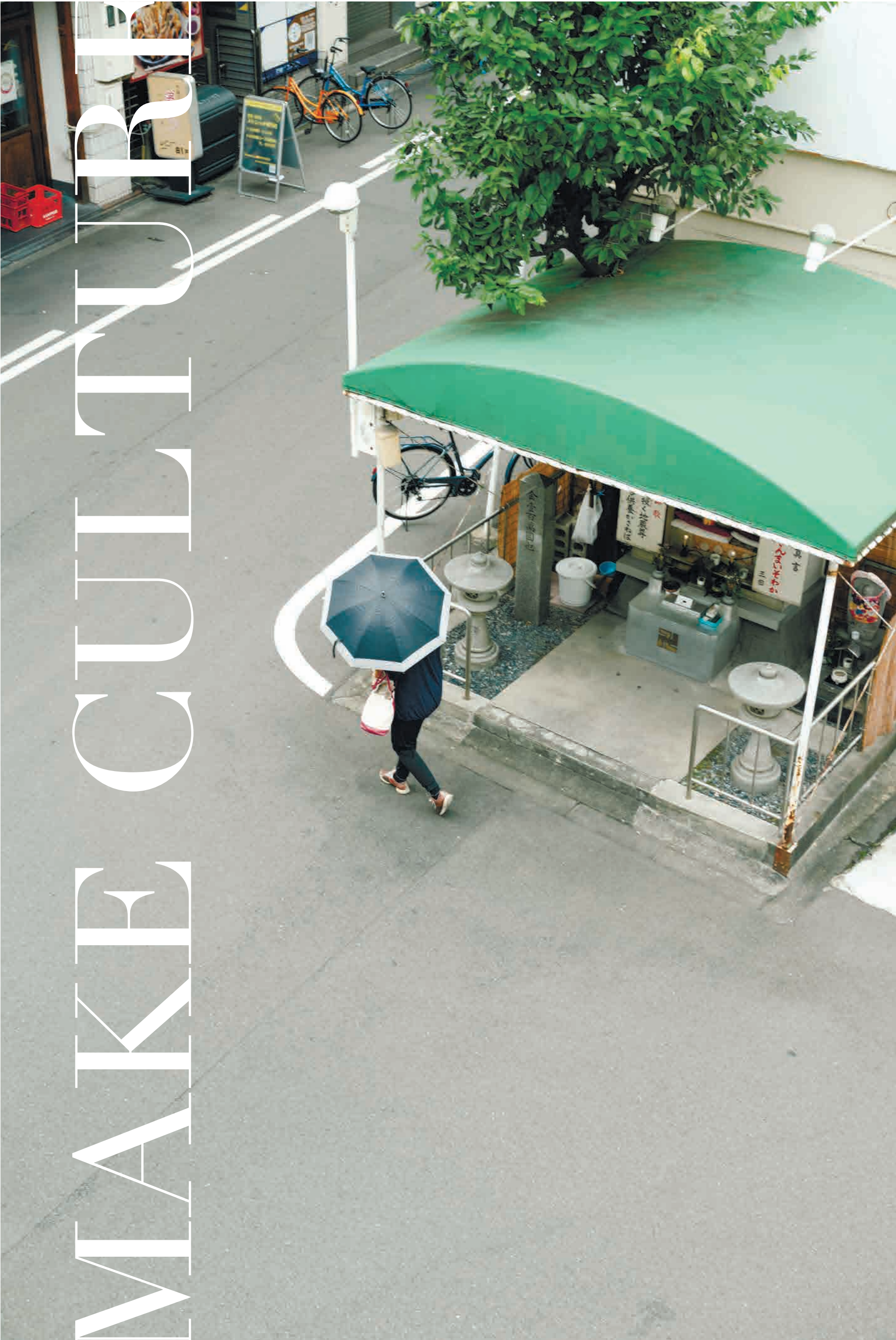


Photo by Yoshihiko Wada

日本各地のあらゆる場所にある地蔵は、道の分岐点である辻に多く見られる。道と道が交差する辻は、人々の往来が集中し、商業や情報の交換が活発に行われる場であり、町割の起点として重要な役割を果たしてきた。賑わいのある一方で、辻は異なる空間や次元が交差する場所ともされ、人々に迷いや不安を生じさせる場でもあった。そのため、地蔵は辻に祀られ、迷う人々を正しい道へと導く地域の守り主として存在している。地蔵の足元には、果物や菓子、花などのささやかではあるが心のこもったお供え物が置かれる。かつての地域社会では、地蔵に供えられた食べ物が貧しい人々に分け与えられる習慣があった。

